

2011年3月11日の福島原発の事故は、15万人以上の人の生活の基盤を奪い、数知れない多くの人の命を今後長期に亘って脅かすことになりました。この事故は、私たちに原子力発電に依存し続けてよいのかという問いを突きつけています。この問いを真剣に受け止め、何を選択すべきかを根源的に考え合いたいと思います。

チェルノブイリと福島から

講師 **山崎 知行** (和歌山県岩出市医師)

原子力発電の根本的問題を考える際にチェルノブイリ事故とフクシマ事故から学ぶことが重要と考えています。双方に共通すること、政府や公の機関が事実を歪め、正確な情報が伝えられなかったことがあります。政策的には原子力を維持したい権威権力筋が歴史的に人体への影響を過小評価することを貫いてきたことによると思われまます。

チェルノブイリとフクシマ双方を外から見てきた者として、現場からの報告を放射能汚染の状況や身体に起こっている様々な変化を絡めてお伝えし、一緒に考えてみたいと思います。

日時 2013年 11月30日 (土) 13:30~17:30

場所 関西セミナーハウス ※会場への地図は裏面をご覧ください。

参加費 1,000円、学生 500円 (コーヒー込み)

*11月27日までに FAX(裏面)、電話、電子メール等でお申し込み下さい。



山崎 知行 YAMAZAKI Tomoyuki

1943年生まれ。1959年 高校1年で受洗。

1969年 鳥取大学医学部卒業。1984年 現在地にて内科診療所開業

1986年 チェルノブイリ原発事故 以降放射能の人体への影響に関する情報収集

2005年 NCCチェルノブイリスタディーツアーに参加 (ベラルーシ)

2006年 同 上 (ベラルーシ)

2008年 同 上 (ベラルーシおよびウクライナ)

2011年 東京電力福島第一発電所1~4号炉 順次爆発 福島訪問 (7月、10月)

2012年1月から教区派遣により主に福島県にて子供健康相談を担当、10月まで。

2013年3月から奇数月に同上相談会担当

2013年9月NCCチェルノブイリスタディーツアー (ベラルーシ)

日本基督教団大阪教区核問題特別委員会委員、同教団愛隣教会会員 (和歌山県海南市)

- ◎スケジュール◎ 13:30～15:00 挨拶・講師紹介
 講演・発題
 15:00～15:30 コーヒーブレイク
 15:30～17:20 質疑とほなしあい
 17:20～17:30 まとめとアンケート記入



2013度 修学院フォーラム

社 会 — エネルギーを考える — 原子力発電の根本的問題と我々の選択

第2回 2014年1月12日（日）～13日（月・祝）

「科学と大学の役割」（仮）

講師：姜 尚中（聖学院大学全学教授）

「今、聖書から問う—核利用の根にあるもの—」

講師：上山 修平（日本キリスト教会横浜海岸教会牧師）

いのち — 生、老、病、死を考える

第3回 10月26日（土）

「死にゆく人格権 —自宅で家族に看取られる死が理想なのか？」

講師 福島 旭（関西学院中学部宗教主事）

福 祉 — 重荷を負う人と共に

第2回 2014年2月22日（土）

「前例がなければつくればいい」 講師：青野 浩美（声楽家）

【申込み・問合せ】

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

<http://www.academy-kansai.org>

電話 075-711-2117

FAX 075-701-5256

電子メール office@academy-kansai.org

所長代行 榎本 栄次

担 当 都木かおり



* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

2013年度 修学院フォーラム「エネルギーを考える」第1回 参加申込書

<small>(フリガナ)</small>	
名 前	所 属
住 所 〒	
電話 ()	FAX ()
電子メール:	@
通信欄:	